

平成20年度
「地域再生を担う人づくり支援調査」

(岡山県笠岡市)
「海・山・町の3地域連携」
報告書(概要版)



平成21年3月

国土交通省都市・地域整備局地方振興課

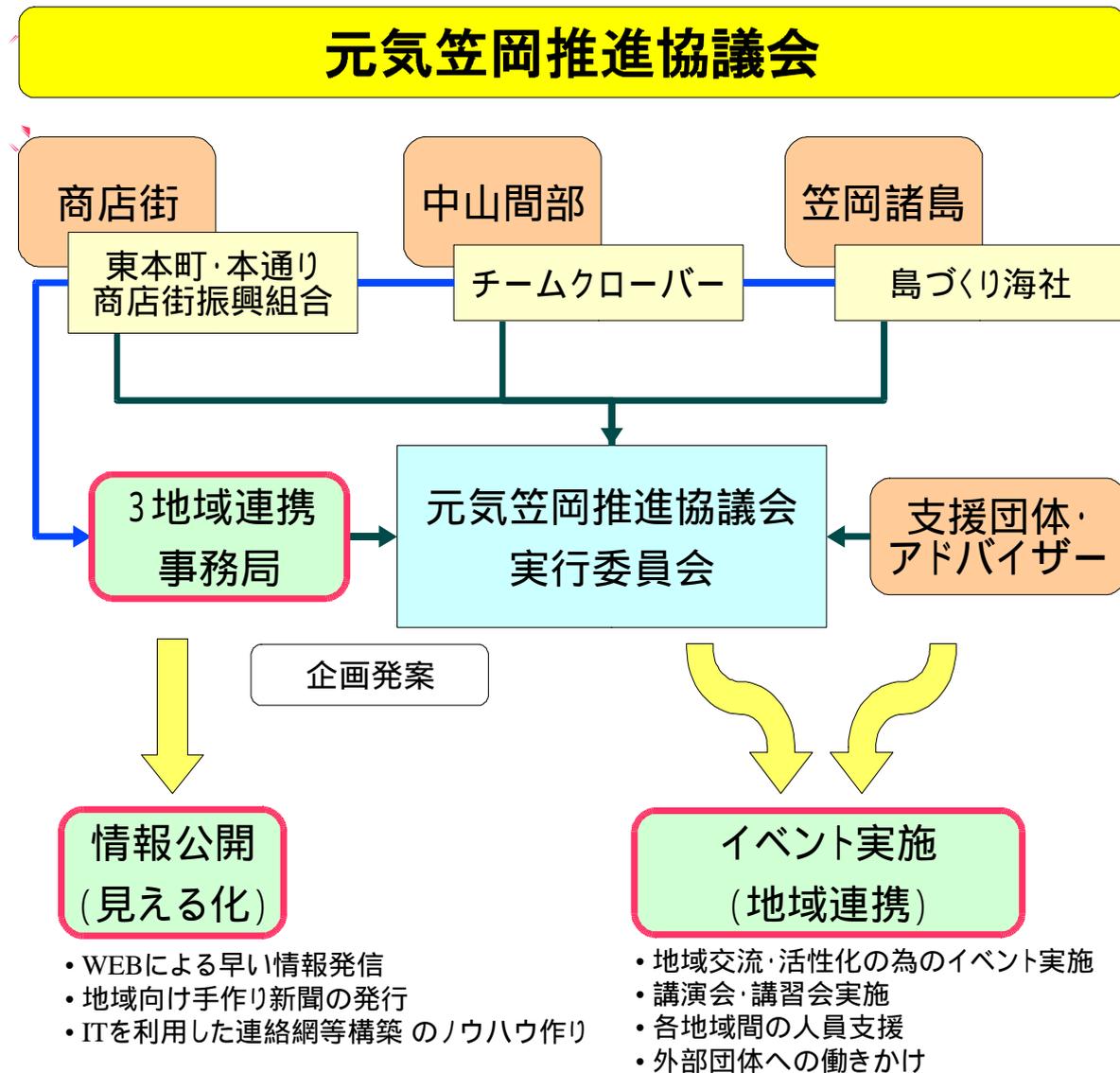
調査の命題

「条件不利地域が連携し活動する中で担い手育成を行い、地域の再生を模索する」

実施期間 平成20年9月10日～平成21年3月末

実施場所 岡山県笠岡市(笠岡駅前商店街・笠岡諸島・笠岡市中山間部)

実施主体 元気笠岡推進協議会



人づくりのための3つの柱

地域連携・・・地域連携により「外からの目」による刺激を活力に

事業の見える化・・・一人でも多くの協力者を得るために事業を分かりやすく見える化

事務局体制の強化・・・事務局体制がしっかりしていないと事業継続は出来ない。

商店街を舞台にして3地域が連携 「店られてツアー」の実施

10月17日

店られて笠岡ツアー「食べ歩き編」



・商店街歩き

・こだわりの店主紹介

辻与旅館での昼食の後に、商店街を散策し、魚宮にて魚の見分け方、捌き方の講習を行う。街歩きでは東本町商店街・キリスト教会・多宝塔などの歴史的な文化財を見学。

11月24日 店られて笠岡ツアー「うんまい新米編」



・商店街歩き

・こだわりの店主紹介

・海・山の旬の素材を味わう

山の新米と海の灰干しという旬の素材を商店街に集め、素朴な料理を楽しむ会を実施、その後商店街歩きや特製シュークリームには山の卵も使用した。

12月13日 店られて笠岡「子ども商人選手権」



・商店街でのキャリア教育

若い世代に関心を持ってもらうために子ども対象の事業を検討。商人の仕事が子どもが体験しながら商業のしくみを勉強できるように工夫。

1月24日 店られて笠岡「店テリー」ツアー



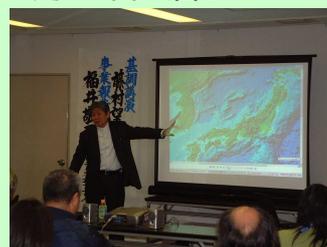
・ミステリーツアー形式

・こだわりの店主紹介

・商店街歩き

日程を公表しないミステリーツアー形式で新しい企画性をだす。こだわりの店主紹介に山の米作り、海の石の販売の2名を紹介

2月21日 店られて「進歩」ジウム



・振り返り

・協力者開拓

一連の「店られてツアー」のまとめの行事として実施。事業目的等について藤村先生に解説していただき、実行委員会メンバーがパネリストになって問題提起・提案をおこなった。

事業の見える化

- ・WEBによる早い情報発信
- ・地域向け手作り新聞の発行
- ・ITを利用した連絡網等構築 のノウハウ作り

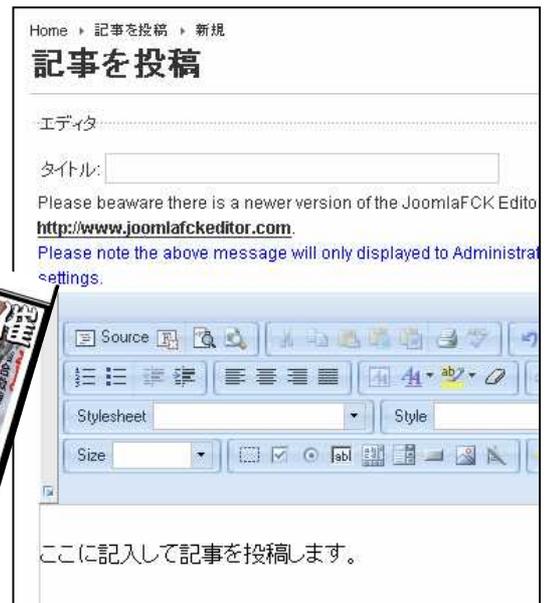
<http://www.genkikasaoka.org/>



元気笠岡推進協議会ホームページトップ



元気笠岡ギャラリー



気軽に記事を投稿できるフォーム

店られて笠岡新聞の発行

事務局体制の強化

事務局と実行委員会の役割分担・担い手育成は事務局で

研修会・講演会

11月19日

店られて笠岡講演会「大湯賞吉氏講演会」



地域連携の実践事例を聞きながら、講師の非凡なチャレンジ精神に裏づけされた熱い思いを感じる講演。地域の価値を発見・聞く・活かす～連携が決めて。

12月7日

店られて笠岡講演会「吉本哲郎氏講演会」



「あるもの探し」という視点から、無いものねだりではなく地域にあるものを活かし、その組み合わせにより新しいものを常につくりつづけることが必要。そうでないと衰退。

11月26日・27日地域リーダー研修会

鹿児島県徳之島町(加藤・池田・守屋参加)



サトウキビの加工工場を見学。昔ながらのものづくりを実感。新しいものつくろうという意気込みをとよく感じる。

12月3日・4日地域リーダー研修会

北海道下川町(福井参加)



日本で一番寒いというマイナス点を逆手にとって、アイスキャンデルを制作し全国展開している。その他ここでしか出来ない奇策が目白押し。

連携事業

10月19日 笠岡諸島イメージアップ大作戦



笠岡のシーサイドモールにて笠岡諸島のPRイベントを開催し、島と商店街の連携をアピールしました。

1月19日 防災朝市



11月21日、12月21日・1月19日
店られて全国物産展



3月29日 飛島椿祭り商店街応援隊



20年度は商店街を中心とした事業展開となっていたため、商店街から島・山への応援の事始として飛島の椿祭りにスタッフとして4名参加しました。

成果と課題・今後の取組み

実績

事業実施期間中の集客人員1059人
店られて笠岡ツアーで訪れた商店数のべ30店舗 智恵袋6名
担い手育成の実績 事務局関係者 商店街2名・山1名・笠岡諸島3名

課題

実践活動を通じて「担い手育成」を図るために、数々のアイデアと既存の事業を関連付けて具体的なイベント事業を数多く実施したため、イベントに追われるという感じで即効果には結びつかなかったが、商店街では認知度も高かった。

連携といいながら事務局の中での連携に終始していた感があり、広く関係団体を巻き込むためには思いつきのアイデアを今後仕組み化する取組みが求められる。

商店街振興を目的とした事業と取られがちであるが、立地条件や人材の確保の関係から一番取組みをし易いということでの「商店街」であっただけであるが、今後も担い手育成を進める「場」としての商店街の優位性も強く感じ、そのプログラム化も必要な取組みである。

持続可能な事業展開を図るためには、その事業を支えるしっかりとした事務局づくりとその仕事の数値化、そして、事業が補助も含め継続可能な収益性の検討が必須となってくる。

「場づくり」の必要性

今回の事業のポイントは「地域を超えた事務局づくり」であり、それは担い手育成の「事務局づくり」ともいえる。そんな地域を超えた「場づくり」ができたということが最も大きな収穫であった。

今後、この「場」を積極的に活用すれば、本来の目的である担い手づくりのための実践活動の場を「海」「山」「町」へとどんどん広げ、地域再生に繋げることが出来ると思いを強くした。